

今よみがえる二つの『どろろ』 ——手塚治虫原作マンガと 2019 年版テレビアニメ——

沈美雪*

要旨

『鉄腕アトム』『ブッダ』『ブラック・ジャック』『火の鳥』など、数々の傑作を世に送り出し、マンガの神様と呼ばれている手塚治虫であるが、中には、打ち切られたかのような唐突な終わり方の作品もある。1967年に連載が開始された『どろろ』がそれである。この作品は、戦国時代を舞台に、妖怪によって体の部位を奪われた少年・百鬼丸が、自分の体を取り戻していく過程を描く冒険の物語である。ただ、いろいろな理由により、原作マンガも、1969年に出された第1作のアニメも、手塚自身はあまり評価していなかったようである。

そして、TVアニメとしては2作目に当たる同名アニメが2019年に放送され、大きく反響を呼んだ。今作においては、不健全者という主人公の設定が、リアリティーを持った表現と、いい意味での改変が反響に結び付いた理由の一つに挙げられる。そして、多くの天変地異、国境の争いで衰退した自身の国を救うために、我が子さえ犠牲にできた主人公の父・醍醐景光に、正義を振りかざした多くの権力者と重なって見え、一方、戦争という名の人災で犠牲にされた弱い人たちが、非力でありながらも懸命に生きようとする姿が、暗闇の中で放たれる光のように描かれているのも特徴である。

本論は、こうした2019年のテレビアニメ版を対象とし、原作と比較しつつ、手塚作品の主要テーマである戦争と生、そして現代に生きる我々にとって、人間らしく生きる意味や正義とは何か、今をどう生きるべきか、といった問題を考えるのが目的である。

キーワード：手塚治虫、『どろろ』、人間として、戦争、正義

* 中国文化大学日本語文学科副教授

重生於現在的二個《多羅羅》 ——手塚治蟲原作與 2019 年版電視動畫——

沈美雪*

摘要

被稱作漫畫之神的手塚治蟲創作了多部膾炙人手的作品，如《鐵臂阿童木》《佛陀》《黑傑克》《火之鳥》等，但其中卻有感覺唐突完結的作品，那即是 1967 年開始連載的《多羅羅》。作品以戰國時代為背景，描寫被妖怪奪走身體部位的少年百鬼丸，為了取回完整的身體而展開了一連串的冒險故事。但由於種種理由，原作漫畫或是 1969 年播出的第一部電視動畫，手塚治蟲本身都沒有給予太高的評價。

2019 年的重製動畫播出後受到廣大的迴響，身體殘缺不全的主角人物設定在現代終於為視聽者所接受。本作品凸顯了主角身體殘缺的設定，並將作品劇情改編得更加貼近現實。在本作中，為了拯救飽受天災、戰爭所苦的領地，不惜犧牲自己孩子的主角父親・醍醐景光，令人想起了標榜正義的自私權力階級；另一方面，在名為戰爭的人禍中被犧牲的弱者努力想要生存，宛若是在黑暗中散發出的光芒。

本論文的目的，以 2019 年版的電視動畫為研究對象，透過與原作漫畫之比較，思考手塚治蟲作品中的幾個重要主題，如戰爭與生存，以及對生活在現代的我們而言，生而為人的意義、何為正義…等等的問題點。

關鍵詞：手塚治蟲、《多羅羅》、生而為人、戰爭、正義

* 中國文化大學日本語文學系副教授

Two Versions of “*Dororo*” Revived Now : Osamu Tezuka Original Manga and 2019 TV Anime

Shen, Mei-Hsueh*

Abstract

Osamu Tezuka, who is called the God of Manga, had released manga masterpieces such as “*Mighty Atom*”, “*Buddha*”, “*Black Jack*”, “*Firebird*”, but one of his works ended abruptly as if it had been cut off. That is the “*Dororo*” series which began in 1967. This comic features an adventure story of a boy, Hyakimaru, whose parts of his body had been robbed by many Yokai during the Warring States period and regained to the complete whole body afterwards.

Then the remake anime of “*Dororo*” was aired in 2019 and enjoyed great popularity. The work revealed the setting of the hero’s disabilities and was adapted to be closer to reality. And the hero's father, Kagemitsu Daigo, sacrificed his own child to save the suffering territory, and it seemed to trick the name of justice by manipulating the power structure. On the other hand, the vulnerable people struggled to live in the wars of the man-made disasters as if a beam of light emitting in the dark.

The purpose of this paper is to survey the TV anime version of 2019 by comparing it to the original to reflect the main themes of Tezuka Manga like war, life, the meaning of being born as a human, what is justice, how to live now, and so on.

Keywords: Osamu Tezuka, “*Dororo*”, born as a human, war, justice

* Associate Professor of the Department of Japanese Language and Literature, Chinese Culture University